

関西現代俳句協会 会報

No. 40

2011. 10. 20

宇多喜代子顧問を始め総勢八九名の会員他が集い盛会であった。今大会の投句数は昨年を更に上回り、一五〇〇の大台を超えることが出来た。
この成果が来年十月大阪で開催される全国大会につながるよう願っている。

第三回「関西現代俳句大会」開催

ご協力ありがとうございました

―三三三二名の方から、一五三六句！―



会長のあいさつ

第三回関西現代俳句大会は去る四月十六日(土)、大阪市中之津のラマダホテル大阪において、応募者三三三二名、投句総数一五三六句の参加を得て、併催の理事会・総会・懇親会と共に盛大に催された。昨年の第二回に引き続き来賓として東京から現代俳句協会・安西篤幹事長を迎え、

「第三回 関西現代俳句大会」入選句(計、三十五句)

大会賞

綿虫の漂ふと云ふ力かな

秀逸賞

過去捨てにきて桜貝持ちかへる

綿虫のゆるやかな距離影もたず

父祖の田を守りて老いの鋤始め

勝ちつづく疵をふやして喧嘩独楽

入選賞

紙風船つけば山河の音がする

ひそやかに徹広がれり人体図

窯守へ鍋ごと届く根深汁

格子戸の奥の機音日脚伸ぶ

風の字の風のふりする良寛忌

消しゴムで消した八月消えていない

陽炎の入りきれない電子辞書

野水仙よりも小さき遊女墓

生きてゐる顔がうつすら齋粥

東京の空の退屈冬帽子

柏原 才子 (季流)

鈴木 順子 (京鹿子)

大西優九里 (京鹿子)

高橋二三子 (藍)

山崎よしひろ (暁)

村田あを衣 (京鹿子)

小崎 愛子

津野 洋子 (京鹿子)

山田 和 (京鹿子)

三好つや子 (海程)

田辺三耶子 (暁)

玉記久美子 (風来)

竹下 道子 (京鹿子)

吉田 成子 (草樹)

大道 玉貴 (草樹)

半日はこの世にありし雪だるま

選者特選賞

上森 敦代 (暁)

月読の山へ鳴き入る狐かな

津野 洋子 (京鹿子)

すすき野に倒れし夫よ灰神楽

若森 京子 (海程)

冬の海いま人形の立ち上がる

前田 勉 (暁)

オリオンへわが白息の雲のごと

高島 尚子 (暁)

陽炎の入りきれない電子辞書

玉記久美子 (風来)

太陽光発電パネル初明り

辻本 孝子 (藍)

一脚の椅子と向き合う阪神忌

平井 幸子 (暁)

海鼠噛み日和見主義となつてゆく

蔵田ひろし (草樹)

兵役なき国のピアスとポインセチア

田口美喜江 (暁)

昭和の世今も身のうち去年今年

矢野 夏子 (暁)

母を訪ふ日を朱に囲み初暦

竹内 久子 (京鹿子)

聞えくる運動会と過ごしけり

合田マサル (半夜)

空蟬は風のたましいなりしかな

釜田きよ子 (香天)

勝ちつづく疵をふやして喧嘩独楽

山崎よしひろ (暁)

台風やまず胃薬を買ひに行く

清島 久門 (蛭)

離の間に掛かる煤けし弓矢かな

森 つる子 (斧)

着ぶくれて風のことばを聞きに行く

小池万里子 (暁)

綿虫のゆるやかな距離影もたず

大西優九里 (京鹿子)

アフリカの地図を広げて三尺寝

清島 久門 (蛭)

(入選作品は関西現代俳句協会のホームページで紹介しています)

「選者について」

第三回俳句大会の選者は次の方々をお願いした。特別選

者として安西 篤 (現代俳句協会幹事長)、固定選者とし

て豊田都峰 (京鹿子)、吉本伊智朗 (斧)、豊長みのる (風

樹)、小泉八重子 (季流)、室生幸太郎 (暁)、吉田成子 (草樹)、



披 講 (藍の近藤詩寿代さん)

若森京子 (海程)、和田悟朗 (風来)、伊丹三樹彦 (青群)、花谷和子 (藍)、谷下一玄 (半夜) の十一名、一般選者として岡崎淳子 (暁)、谷口洋 (駅)、的場秀恭 (獅林)、鈴鹿均 (京鹿子)、三宅睦子 (鴻の鳥)、三宅岳童 (俳句作家)、桂鴻志の七名、計十九名の方々である。

「投句および選句」

第三回大会は、おかげさまで第一回、第二回を上回るご協力をいただき、参加人数は三三二名でした。

だが、投句数は一五三六句と、一五〇〇の大会を超え、予想を遙かに上回る盛況振りでありました。

これを直ちに作者無記名の「選句稿」にまとめ、十九名の各選者に送った。選句は一名四十句とし、今回より新たに設けられた選者特選賞のための特選各一句の選定も併せてお願いした。

会員の皆様はもとより、会員以外の俳句愛好者の皆様の俳句に対する熱意と情熱に改めて感謝を申し上げると共に、ご多忙中快く選者をお引き受けいただいた十九名の方々にも、また、類似句の調査にご協力願った現代俳句協会事務局のお力添えにも、厚く御礼を申し上げる次第である。

「大会当日」

俳句大会は桑田和子事務局次長の司会により始まり、まず、三月十一日の東日本大震災で亡くなられた方に、会場の全員が黙祷を捧げた。そのあと、豊田都峰会長の挨拶、



俳句大会表彰

司会者による選者紹介に続き、司会者及び披講者の近藤詩寿代氏による入選句及び入選者の発表、豊田会長による表彰、各選者による講評が執り行われた。各賞は、まず最初に大会賞、秀逸賞、入選賞の発表、表彰、講評、続いて今大会より新設された選者特選賞の発表、表彰、講評が行われた。

栄えある大会賞を獲得されたのは柏原才子氏。以下、秀逸賞四名、入選賞十一名の計十六名に豊田会長より賞状と副賞が授与された。講評は豊田会長の総評に続き、和田悟朗顧問、吉田成子副会長、的場秀恭理事、谷口洋理事、小泉八重子副会長、吉本伊智朗副会長により各賞の講評があった。

選者特選賞は安西幹事長始め十九名の選者による特選各一名の計十九名に豊田会長より賞状と副賞が授与された。上記各賞とダブル受賞された方が三名、二句がそれぞれ選者特選賞を獲得された方が一名おられた。表彰のあと、出席された十名の受賞者全員に豊

田会長、安西幹事長、吉本副会長、小泉副会長、室生幸太郎副会長、谷下一玄顧問、的場理事、岡崎淳子理事、鈴鹿均理事による講評があった。

最後に、豊長みのる副会長の閉会の言葉により、大会は滞りなく成功裡に終了した。多数の皆様のご投句・ご参加・ご協力有り難うございました。

(前田 霧人)

大会入選作品講評

豊田 都峰

大会ごとに投句数が増え、今回は一、五三六句と、設定していた大台の一、五〇〇を超えてうれしにかぎりです。

選者一九名が特選一句・入選四〇句を選定、その集計で入選句を決定しました。選者を代表して少し講評しておきます。

大会賞作品

綿虫の漂ふと云ふ力かな

柏原 才子

「漂ふと云ふ」ところを単なる説明と採らさないと「力」という締めにある。一つの根源的な把握で綿虫を捕らえている。

秀逸賞作品

過去捨てにきて椀貝持ちかへる

鈴木 順子

「椀貝」を過去と考えるのか、新しい過去を造るものと考えなのか、そのあたりの幅に遊ばせるあたりがこの作品の魅力なのであろう。

綿虫のゆるやかな距離影もたず

大西優九里

「ゆるやかな距離」もうまく把握されているが、下五の断定がこのポイント。綿虫の存在の仕方を把握している。

父祖の田を守りて老いの鋤始め

高橋二三子

「老いの」に感慨がある。自分は守り継いだ、自分の後は、というところ。感慨を直接出さないので、具体的に詠っているのがよい。

勝ちつづく疵をふやして喧嘩独楽

山崎よしひろ

「疵を」を詠うことで作品になっている。俳句は発見であるという、その一つの作品である。

『海の盆』を新しい季語に提案します

関西現代俳句協会

会長 豊 田 都 峰



皆さん、今日は。ますますのご精吟をお慶び申し上げます。今回の挨拶は、一つの提案にかえさせてもらいます。

東日本大震災より五カ月あまり、しかしまだ不明者が五千人足らずと知られるとたいへん心が痛みます。ニュースの原点としてたいへん具体的にいろいろな事が報ぜられていますが、先日「海の盆」という名で鎮魂の行事を企画されているような場面を見ました。

途端に、この言葉をお借りして、ぜひ季語にしなければと思いい立ちました。震災と俳句のかかわりがいろいろ言われておりますが、大きな窓があった方がよいわけです。

大きな悲しみ・深い鎮魂の思いを含めた「海の盆」を季語としよう、一つの約束としたいと、提案するしだいです。「みちのく・海の盆」は「越中・風の盆」と肩を並べてはいかががでしょうか。併せて「おすたか・雲の盆」。追善供養は生者の義務であります。

ひとすぢの月のかげおく海の盆 都峰
動きとなれば当然地元と相談しながら定着を計る必要がありますが、ご一考下さい。

事務局便り①

青年部との一年

いつも青年部活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

青年部この一年の活動として、平成二十三年三月に大阪吟行・句会を行いました。桜には少し早い中之島と大阪城周辺をアクアライナーで巡り、川面から大阪の早春をたのしんだあと、軽食をとり、中之島公会堂で句会を行いました。句会では吟行を共にした気軽さから活発に意見が交わされ、ゆっくりと自分たちの句に向き合うことができました。

続いて七月、ゲストに宇多喜代子氏をお招きし、柿衛文庫で句会を行いました。定員を超えるほどの申し込みがあり盛況な句会になりました。

このたび、私、上森敦代は年齢的に青年部卒業ということになり、部長を退かせていただきました。次は杉浦圭祐氏が引き継いでくれます。七月の句会から杉浦氏の担当でした。十月には「西東三鬼の肉声テープを聴く会」を行う予定になっています。今後も新しい企画、パワフルな活動が続きます。行事予定は関西現代俳句協会ホームページでもお知らせしますので、ご参加、ご支援をお願いします。また、ご意見ご希望等お寄せいただければ幸いです。(前青年部部长 上森 敦代)

関西現代俳句協会事業報告

平成22年7月1日～23年6月30日

会長 豊田都峰

◆忘年句集祭の開催

(平成二十二年十二月四日)

年末恒例の「忘年句集祭」は、今年で三十六回目を数え、これからも続けての開催を期待されている。しかし



安西幹事長のあいさつ

し昨今は景気の動向や会員の老齢化によつて会員の句集、エッセイ等の作品の数に若干の減少が見られるのはいささ

か残念だが、それでも句集上梓に熱心な会員のお蔭で、たとえ出版数の減少があつても質の高さは十分に維持されているのは嬉しいことである。今年も会場はいつもと同じラマダホテル大阪に約八十人の参加者と出品作品十二冊を得て開催、作者の自選句各一句を墨書展示し、その下に出展句集等を配置して会員のため展示を行った。出席の会員も句集など会員の力作を手にとつて眺め、また趣のあるエッセイや句集の内容に触れ、その手触りを楽しむなど上質のひとつ時を楽しまれた。来年度の出展作品の増加を期待するものである。

◆「総会」及び第三回「関西現代俳句大会」

の実施と「五七五の世界」講座の開催



理事会風景

1、「総会」(平成二十三年四月十六日)
総会は年一回、会計年度の終わりに開催して過去一年間の成果を締めくくつて会員に報告し、承認を頂いた上で次年度の活動予定や予算を認めて頂く、いわば協会の基本となる大切な集まりであり、どんな会でも必ず開催することが義務付けられている。当会では例年四月に俳句大会と併せて同日開催することにして

いる。今回も八十九名の参加と、必要な数の委任状の提出を得て開催。東京本部から来賓として安西篤幹事長、宇多喜代子顧問の出席を得て開かれた。

今回の総会でいつもと違った点は

①、物故会員のための黙祷に合わせ、東日本大震災の犠牲者に対する黙祷も行なったことである。勿論、協会の会員の中にも若干でも被害者が居られることも念頭に入れてのことだ。②、次に第三回関西現代俳句大会の報告（先述）。③、来年十月には大阪で第四十九回現代俳句全国大会が開催されることになったこと及びそれに関する措置の発表などである。④、その措置としては来年の四月に第四回関西現代俳句大会を開催することになるが、同年中

まで任期を延長することとし、これも出席者全員一致で承認された。これにより定年延長者及びその他の全理事は、すべて大会運営に必要な投句は勿論、運営に協力することが要請された。なお、大阪での第四十九回全国大会は平成二十四年十月二十七日（土）、JR大阪駅に隣接するホテルグランヴィア大阪にて開催と決定した。

2、「第三回関西現代俳句大会」の開催 （平成二十三年四月十八日）

に大きな大会を二つも実施することは、会員にもかなり負担をかけることになるので、第四回関西大会は中止し、一年延期すること。及び今年から来年にかけての会長以下の幹部及び理事（全五十名）は八十歳役職定年制に拘わら

当会において「忘年句集祭」と並ぶ、「関西現代俳句大会」は、これからの関西の行事の大きな柱として、会員活性化のため継続開催することになっている。今年も四月十六日、同じラマダホテル大阪を会場に開催した。大会に先立って集計したところ、三三二名が参加、これは昨年に比較してやや少なかったが、逆に投句数は一五三六句と昨年を上回って一五〇〇の大台を超えることが出来た。参加された会員や例年投句して頂く俳句愛好家の方々に改



俳句大会の和田悟明氏

ず全国大会を乗り切るために、全員、再来年四月の総会

をやり直そうと決意し、今年も四月十六日、同じラマダホテル大阪を会場に開催した。大会に先立って集計したところ、三三二名が参加、これは昨年に比較してやや少なかったが、逆に投句数は一五三六句と昨年を上回って一五〇〇の大台を超えることが出来た。参加された会員や例年投句して頂く俳句愛好家の方々に改

和やかに懇談中の皆さん



めて感謝する次第である。関係者、参加者は大会終了後「作品集」を配布したが、今年の特徴は入賞者の数を増やし例年の大会賞、秀逸賞、入選賞に加えて各選者特選による「選者特選賞」（十九人該当）を新設したことである。これによって入賞者の幅がぐんと拡大されたことは喜ばしい。

3、「五七五の世界」講座の開催 （年四回実施）

昨年来、新たに発足した「五七五の世界」講座は宇多喜代子現代俳句協会会長及び豊田都峰関西現代俳句協会



懇親会のメンバー紹介（京鹿子の皆さん）

長を講師とする関西初の俳句講座である。俳句の世界には初心者からベテランまでその層は厚いが、どの層にも共通していえることは、もっと俳句を学びたい、もっと上手になりたいとの思いである。本講座はその声に応えての協会の催しである。年四回であるが、現代俳句協会を代表する二人の講師が各九〇分ずつ、テーマを変えて熱弁をふるわれ、毎回（十一月、二月、五月）百十名近い受講者が毎回一人の脱落も

なく熱心に聞き入っていた。

宇多喜代子講師は現代俳句協会の創立に始まる俳句界の諸問題。俳句の基本点などが主な論点であり、現代作品の例句も豊富に話された。豊田都峰講師は五七五音の音の分析に始まって、日本文芸の形やその歴史を時系列的且つ具体的に懇切に解説され、また万葉集に始まる歌や俳句の関連性、事例としての俳句も豊富に示された。既に三回終了しているが、いずれも熱心な聴講者の熱気で会場となった大阪の中央電気倶楽部を湧かせている。最後となる第四回は今年の九月十二日（月）開催された。

◆その他の活動及び報告

①当会の会員、丸山佳子さん（一〇三歳・京鹿子名誉会員）が長年の間俳人として活躍される傍ら、いまなお後進の指導にあたられ、協会の発展に寄与されるところ大である等々の理由により、三月の協会理事会の賛同を得て「名誉会員」に推挙された。これは当会に



懇親会

とつても名誉なことである。

②広報活動 ホームページの運用

当会には二本の柱である「総会・俳句大会」及び「忘年句集祭」、その他

活動を告知するものとして、年一回の「会報」の発行、及び「ホームページ（HP）」の常時運営がある。「HP」は行事毎の予告や結果報告、協会の運営情報、その他臨時のお知らせ等についても効率的に幅広く活用しているが、特に巻頭の「会員によるエッセイ」が好評である。また協会本部のHPともリンクしているので、会員自身の作品や有名俳人の作品等自由に検索できるので、ぜひ利用されたい。

③「会報」の発行

「会報」は、現在会員が一〇五〇人ほど所属しているため、メール便にしても送料が高額になる。このため速報を必要とするものについては「HP」に委ね、総括としての広報を年一回「会報」が受け持っている。内容は、年間行事や会計報告、俳句大会の結果報告、毎年の新会員の一句披露や人事発表、各部報告等あらゆる協会行事を多岐にわたって報告している。

④青年部の活動

どの協会も苦慮しておられると思うが、青年部は五十乃至五十五歳を上限とする若い会員がなかなか入会しないので伸び悩みの状態にある。この点が今後の最大の課題であるようだ。それでも青年部としては年二回、シンポジウム、句会と少人数による活躍ながら地道に続けて好評である。大いに期待したい。

⑤新会員の獲得

いつものことであるが、協会会員の老齢化による減少は避けられない。殊に東日本大震災の災禍をくぐりぬけた今とあつてはなおさら厳しい現実に晒されている。関西もご多分に漏れず同じ傾向にあるが、それでも豊田会長を先頭に、有力結社の主宰のお力添えを頂き、また会員個人の人脈をたどつての努力も重ねている。これからも魅力ある協会を標榜しつつ、一層獲得に努めたい。ご協力をお願いします。

(尾崎青磁)

謹 悼

平成二十二年七月一日より、本年六月末までの期間中に、現代俳句協会において受け付けたご逝去会員のお名前をお知らせし、謹んでご哀悼申し上げます。

記

- | | |
|--------|------------------------|
| 日下部 正治 | 京都府・青い地球
(平成二十二年三月) |
| 福田 万紗子 | 京都府・寒香
(平成二十二年二月) |
| 岡地 好恵 | 堺市・季節
(平成二十三年二月) |
| 黒谷 智子 | 豊中市・藍
(平成二十五年一月) |
| 坂和 誠子 | 豊中市・藍
(平成二十五年四月) |
| 西村 省吾 | 門真市・激流
(平成二十二年八月) |
| 榎本 三多之 | 川西市・俳聖会
(平成二十五年三月) |
| 長谷川 土龍 | 加東市・花鏡
(平成二十二年十一月) |
| 正木 節子 | 神戸市・満
(平成二十一年十二月) |
| 三宅 陽湖 | 加西市・満
(平成二十一年十二月) |
| 山田 一恵 | 南あわじ市・藍
(平成二十五年一月) |
| 薬丸 けい子 | 尼崎市・葉樹
(平成二十三年三月) |
| 中村 憲香 | 神戸市・元青玄
(平成二十二年十一月) |
| 石田 香枝子 | 豊野郡・俳句作家
(平成二十三年六月) |

注：協会受付順

()内は退会年月、敬称略

平成二十五年八月十五日

関西現代俳句協会

五・七・五の世界

今すぐ役立つ作句のポイント講座

関西現代俳句協会では「五・七・五の世界」と題し、年四回の俳句講座を開催した。この講座は俳句の初歩を学びたいという初心の方、もともと俳句を学びたいという中級の方のための講座である。

講師として、宇多喜代子現代俳句協会会長と豊田都峰関西現代俳句協会会長をお迎えした。

第一回を平成二十二年十一月十五日（月）、順次、平成二十三年二月十四日（月）、五月九日（月）まで終了し、第四回の九月十二日（月）を残すのみとなった。毎回、各講師がそれぞれ九十分、質疑応答を含め、午後一時から五時まで四時間にわたる熱気溢れる講座は成功裡に終了した。

第一回俳句講座「五・七・五の世界」（参加一〇四名）

豊田会長は①五音七音の音歩論的分析にはじまり②万葉集③古事記④片歌・和歌⑤短連歌・長連歌・俳諧と話を進め、まるで大学の講義を受けているようであった。俳句の詩形を学ぶに、音歩論の原点から俳句の本筋へと導いてくれた。

俳句は五七五七七であった形の尾をちぎられて、五七五という未完成な形になった。ちぎれた七七に余韻・余情を残しておくことにより、余計な説明をしな

いですむ。

俳句の勉強は、先ず結社に所属して先生の指導を受ける。模倣という手段もあるが、一字一句違わない作品を意図的に詠むのは困る。

⑥類想句について、

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

正岡 子規

鐘つけば銀杏散るなり建長寺

叩かれて昼の蚊を吐く木魚かな

夏目 漱石

叩かれて蚊を吐く昼の木魚かな

降る雪や明治は遠くなりけり

中村草田男

獺祭明治は遠くなりけり

右の句は「本歌取」の手法によるが、良い句を作った方が勝ちなのである。

俳句は未完成な形である。リズムに合いながら合っていない。たいへん短い形である。

宇多会長は、先ず「現代俳句協会の創立」について話された。協会の創立は昭和二十二年であり、会員は石田波郷・西東三鬼・加藤楸邨・日野草城・山口誓子等三十八名。昭和五十年代に千人を超え現在に至る。昔は何人かの推薦人が必要で、なかなか入会出来なかつたようだ。

次に、西東三鬼の残された資料を基に、三鬼の言う作句のポイントについて話された。要約すると、

①俳句の基本は原則として「有季・定型」である。無季・自由律等については今後の課題としたい。三鬼の作品世界は終生多面体であった。

おそるべき君等の乳房夏来る

西東 三鬼

水枕ガバリと寒い海がある

②俳句は風流なものという先入観に捕われないこと。

③生きている実感、感動のポイントを詠む。



会場風景（全景）



豊田都峰 会長

一湾の潮しづもるきりぎりす

山口 誓子

無花果を食ふ百姓の短かき指

〃

「無花果・百姓・短かき指」という最も強く印象に残った所にポイントを絞り、不必要な素材は切り捨てる。俳句は引き算で詠む。

り捨てる。俳句は引き算で詠む。

④ 自他ともに共通する雄大なものを詠む。
⑤ 取合せは反対の事物の配合が面白い。
⑥ 中年や遠くみのれる夜の桃

西東 三鬼

⑦ 最高の指導者につき句会に出る。人前に晒す。一点も入らない句はどこかに欠陥がある。

⑧ 即物具象は来し方を再現させる力がある。

⑨ 俳句は短いという意識を強く持つこと。

省略が佳句の出発点である。

芋の露連山影を正しうす

雲の峰幾つ崩れて月の山

飯田 蛇笏

松尾 芭蕉

「芋の露・月の山」等は省略の最たるものである。

⑩ 何をどう句にするかは感性の問題である。

⑪ 場所の限定はしない方がよい。

人は何故俳句を作り続けるのだろうか。人間には自己表現の欲望があり、俳句は心の拠り所となっているようだという三鬼の考えに同感する。

明治四十二年にすでに「俳句の作り方」という冊子があった。

宇多会長と親交のあった「中上健次と文学」、「健次の俳句感」、「石井露月と子規」のこと等、多岐に亘る内容であり、俳句の基礎を学ばせていただいた。

宇多会長と親交のあった「中上健次と文学」、「健次の俳句感」、「石井露月と子規」のこと等、多岐に亘る内容であり、俳句の基礎を学ばせていただいた。

第二回俳句講座「五・七・五の世界」(参加一二二名)

豊田会長は「芭蕉の世界」について話され、先ず、芭蕉以前の俳諧について、次の句を挙げた。

月に柄をさしたらばよき団扇かな

山崎 宗鑑

しをるるは何か杏子の花の色

松永 貞徳

腹筋をよりてや笑ふ糸桜

北村 季吟

雪の朝二の字二の字の下駄のあと

田 捨女

難波津に昨夜の雨や花の春

西山 宗因

只の時もよし野は夢の桜哉

井原 西鶴

お奉行の名さへ覚えず年暮れぬ

小西 来山

そよりともせいで秋立つ事かいの

上島 鬼貫

目には青葉山ほととぎすはつ松魚

山口 素堂

野ざらしを心に風のしむ身かな

松尾 芭蕉

「芭蕉の世界」についての丁寧な解説のあと「野ざらし紀行」・「猿蓑」についても触れ、芭蕉以前の俳諧は、和歌・連歌・伊勢・源氏など、教養がなければ理解できないと話された。

宇多会長は、「近代歳時記再考」と題し、歳時記の推移・構成について話された。

●能瀬香夢・編著『俳諧貝合』明治七年●匏瓜編『月分け俳句季寄せ』明治三十九年●今井柏浦編『詳解・例句纂修歳時記』大正十五年(現在の歳時記の構成に近い)●改造社・高濱虚子ほかに

よる『俳諧歳時記』(五冊)昭和八年。●虚子編『新歳時記』三省堂・昭和九年。季題として詩あるものを採り、然らざるものは捨てる

ある。改定を繰り返して現在にいたる。時代により季題に変化がある。

◆高橋睦郎「季語百話」(中公新書)より



宇多喜代子 会長

日本という国土は温和で四季の変化に富んでいるから、生まれつき自然に対する細やかな感受性を持つ……この意見は正しいか。半分は正しくない。わが国には歳時記があり、季語をいのちとする俳句があるが、歳時記も季語も日本人の発明ではない。その原型である曆は、中国から海を渡ってきたものである。この曆をもとに和歌の季詞が生まれ、連歌・俳諧を経て俳句の季語に承がれた。季語は私たちが日本人であること、いや人間であること、生物の一員であることの最後の砦であるかもしれない。

◆宇多喜代子「八月晦の赤い禾」（學鏡一〇四巻四号）より

昭和四十年代に田植機が出来、俳句歳時記の農耕季語が変つてゆくことを直感。稲作に関心を持ち、古代米仲間と中国雲南省の田圃に通うようになる。たまたま開いた清少納言の『枕草子』に「へいと赤き稻の……」という稲作の記述を見つけた。そこには、清少納言が目にした田植え風景が、まことに詳細かつ簡潔に書かれていた。世に知られた『源氏物語』や『奥の細道』などがすぐれた古典であることは言わでものこととして、私には、たとえば、清少納言が聞いた田植歌のような、生活の知恵を言葉で残した口伝・伝承もまた古典文芸として評価してもよいのではないかという思いが強くなっている。今では清少納言の『枕草子』と著者不詳の『百姓伝記』は、目下の私の大事な古典であると話された。

第三回俳句講座「五・七・五の世界」（参加一一〇名）



2人の講師

豊田会長は「座の文学」について講義。俳句評価に絶対的な基準はなく、相対的な評価があるのみ。言わば「座」での評価といつてよい。子規以外、「座」は近代文学の「個人」の概念により疎外されたが、グループ・結社・協会なども座と言えば座である。芭蕉を中心とした「座」は

創作にかかわるが、現在の「座」は結果にかかわると話された。

下京や雪つむ上のよるの雨

凡兆

すずしさの野山にみつる念佛哉

去来

大歳をおもへばとしの敵也

凡兆

前句についての『去来抄』よりの俳論は実に面白かった。

次に「芭蕉・去来・凡兆三吟歌仙発句」について、例句を挙げ説明。歌仙とは発句からはじまり、次々と展開し物語を創っていくのだが、いろんな制約があるようだ。芭蕉曰く、東海道の一筋知らぬ人、風雅におぼつかなし。発句は門人の中、予におとらぬ句する人多し。俳諧においては老翁が骨髄。最後に一六三〇年代の「俳諧歳時記」の紹介があった。詳細を述べられないのが残念である。

宇多会長は「多様な俳句」について講義された。

「有季定型俳句」の他に「無季俳句」・「多行表記」・「分かち書き俳句」・「自由律俳句」・「横書き俳句」等がある。

しんしんと肺碧きまで海の旅

篠原 鳳作

戦争が廊下の奥に立つてゐた

渡邊 白泉

祇王寺の留守の扉や推せば開く

高濱 虚子

新鮮な夕刊を買ふ風の中

日野 草城

遺品あり岩波文庫「阿部一族」

鈴木六林男

セレベスに女捨てきし豊かな

火渡 周平

いつせいに柱の燃ゆる都かな

三橋 敏雄

黄の青の赤の雨傘誰から死ぬ

林田紀音夫

朝はじまる海へ突込む鷗の死

金子 兜太

夫逝きぬ父母遠く知り給はず

桂 信子

古佛より噴き出す千手 遠くでテロ

伊丹三樹彦

咳をしても一人

尾崎 放哉

無季俳句は難しい、無季は俳句ではないとの声もあるが、捨てるに忍びがたいものだ。また、無季はテーマで詠み、思いの深さを詠むものだ」と結んだ。

（桑田 和子）

新会員の一句

今年度、現代俳句協会にご入会された皆さんから、一句ずつお寄せいただきました。(到着順)

苺食べ飽きて真つ赤な嘘を吐く 草樹 蔵田ひろし
 耕人の後ろ姿の語りしを 暁 藤本 晋
 少年に母の日傘は高くあり 獅林・寒雷・船団 乳原 孝
 木の下に体おきたる大書かな 槐 谷村 幸子
 ハレの日や嵯峨野に燃ゆる曼珠沙華 藍 小澤 益夫
 形代を流してをりぬ白狐 槐 橋本 正二
 薔薇濃ゆし漢が先に夢を見て 暁 竹口 昇
 花明り京の夜空の青さかな 半夜 合田マサル
 日覆に緑の多き住宅街 洛 十河 智
 夏の川海に注ぎて四角なり 蛮 春木小桜子
 口移しに椿の芯を見せてもらふ 里 男波 弘志
 黙劇の幕開くさくらさくらかな 努 吉井 幸子
 蝉鳴く前に聞こへてゐる現在 花安居 中村 慶岳
 生まれ生まれ骸ころがる大夏野 草樹 すぎきよこ
 弟のような左手さくらんぼ 海程 三好つや子
 国境の両替の列冬木立 草樹 森木 史子
 僧房の昼閑かなり半夏生 風樹 春菜めぐみ
 酸欠になるやも知れぬ蝉しぐれ 草樹・駅 有馬 映子

原っぱに土管がなくて昼寝覚 玄鳥 木村 修
 晩年も俳句少年枇杷の種 蛮 玉水 敬藏
 けふ朝食には朝食の仏さま 花安居 中村 文
 秋深しかすかにインク匂う辞書 暁 南 節子
 草の絮ただ一筋の道歩く 京鹿子 山本美智子
 荒磯に聳てる神岩雲の峰 風樹 小西 月舟
 鬱の字をルーペが解きて梅雨明くる 花藻 北村たかし
 送り出てそのまま帰らぬ螢の夜 暁 栄次 真里
 永遠に眠らぬ遺影や濃あじさい 暁 堀 敬子
 空リフトばかりが戻る男郎花 暁 佐藤 公子
 月の夜は腹式呼吸の深海魚 群峰 寺田 須美
 ふりむけば宮萩まぶし絹の色 京鹿子 吉岡 知香
 関ヶ原つくつく法師鳴きやまず 風樹 中谷 清
 飛鳥寺やここを起点のすみれ草 獅林 梶谷 予人
 氷菓溶け昔話の中にをり 藍 戸川富士子
 パチンコ屋下半身見せ秋を待つ 京鹿子 橋本 道代
 引潮に 寄居虫の群れ立ち上がり 虹旗 乳井 幸教
 蛇轢死せりボタ山に墓標あり 杭 寺西けんじ

この他にも、新会員として登録された方は十四名、合計五十名の方々を会員としてお迎えしました。これからも俳句を通じて、良き仲間との出会いを喜びたいと思います。俳句の好きなお友だちを是非お誘い下さい。

(事務局)

来年秋十月、「関西発」の全国大会を成功させよう!

「ホテルグランヴィア大阪」に十月二十七日(土)と決定

今年十月、東京で開催される第四十八回現代俳句全国大会は、既に七月三十一日投句を締め切りましたが、総投句数一六六八句と、目標の一万六千句をクリヤーし、この三月勃発した未曾有の東北大震災への援助の目的も理解され、会員、非会員の皆様の熱意のこもった熱いご協力を頂きました。まさにご同慶の至りであります。

ご承知のように、現代俳句協会恒例の全国大会は東京、名古屋、北九州の各地に関西を加え、計四地区で毎年欠かさず順番に開催しております。これは大相撲の開催と同じ方法で、例えば今年の東京に続く来年は関西、再来年はまた東京に戻り、その次の年は名古屋というように六年ごとに繰り返し返しております。関西での前回は平成十八年十月、京都の二条城前の京都国際ホテルにて開催された、第

四十三回大会が最後で、それから六年目に当たる来年、平成二十四年が次の開催年に当たります。前回はお蔭で全国から一五七三九句を頂き、空前の成功を収め、全国に関西の行動力を発信することが出来ました。これも会員の皆様のご協力の賜物と感謝しております。

来年の第四十九回は大会の場所を大阪に移し、十月二十七日(土)、J R大阪駅隣接の「ホテルグランヴィア大阪」に、その会場を決定しました。交通至便、まさに日本中から直行で来られると言うくらい便利な場所でもあります。大会当日の講演は現代俳句協会の金子兜太名誉会長にお願いしております。俳壇屈指の論客である金子名誉会長のお話のタイトルは現在未定ですが、俳句についての話題の極めて豊富な名誉会長のユニークなお話は、必ず関西の皆様のお話になることは言うまでもありません。

ん。ご期待下さい。また、応募に関する規定は例年通りで、会員・非会員を問わずどなたでも、しかも未発表作品であれば何句でも応募できます。詳しくは近日発表される予定ですが、投句締め切り日は来年の七月三十一日(必着)と決定しております。

賞としては大会賞、毎日新聞社賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作賞などが贈られるほか、優秀作品(三賞並びに秀逸賞等)は協会の機関誌『現代俳句』に発表するほか、協会刊行物にも採録されます。講評は現代俳句協会会長はじめ協会幹部が行ないます。大会終了後は会場内で懇親会も開催されますので、ぜひご参加下さい。各結社の主宰・代表はじめ関西の会員である皆様には、今回も多数投句にご参加頂いて、大会の各賞を獲得されるなど、主催地の名誉にかけてどしどし入賞されることを願っております。こんな多難な年であればこそ、先輩方の活躍以来、俳句界では常に一歩進んだ活動を続けてきた関西の底力を大いに発揮しようではありませんか。(事務局長 尾崎 青磁)

事務局便り②

□経理部からのお知らせ

昨年はやつと黒字報告が出来ましたが、今年も「第三回関西現代俳句大会」は投句数一五三六句となり昨年を上回り各行事の活動力となっております。

来年は例年の東京、名古屋、関西、北九州の各地区持ち回りの「現代俳句全国大会」が大阪で開催される事に決まりました。

その為「関西俳句大会」は休ませて戴きます。会計面では黒字を生み出す行事ですが、全国大会の方へ一致団結して望む所存です。前会の関西全国大会は一五〇〇〇句を上回り周囲を驚かせました。

現在は会員も減少して居り「一人一人が会員を」のスローガンには変りなく、各結社の主宰・代表者及び会員の方々の会員獲得へのご協力を伏してお願ひ申し上げます。事務局も経費節減に徹し来年の全国大会の備えを固めております。前会に劣らぬ大会を切望しております。

(経理部長 村田あを衣)

今年のホームページのご案内

ただ今掲載中です！

◆今月のエッセイ(二〇一一年度)

一月 「骨正月」 宇多喜代子
 二月 「花粉症」 小豆澤裕子
 三月 「俳句のふるさと伊丹」 伊丹 公子

四月 「母を詠む」 嵯峨根鈴子
 五月 「軽暖と薄暑」 前田 霧人
 六月 「新聞人と俳句」 藤本 晋
 七月 「青年の主張？」 杉浦 圭祐
 八月 「綿虫」 柏原 才子

「今月のエッセイ」執筆の依頼については事務局から順不同でお願いしています。

◆会員の著作(二〇一〇～二〇一一年度分)

小豆澤裕子 『右目』 二〇一〇年 五月

伊丹 公子 『博物の朝』 五月
 濱井 遊季 『予感』 六月
 伊丹三樹彦 『続続知見』 七月
 出口 善子 『羽化』 八月
 櫻井 ゆか 『いつまでも』 八月
 妹尾 健 『洛南』 九月
 豊長みのる 『天望』 九月
 豊田 都峰 『わが里山帖』 十月
 磯野 香澄 『磯野香澄俳句の世界』 十月

忍 正志 『泡沫』 十一月

和田 悟朗 『時空のささやき』 二〇一一年 二月

外山 安龍 『すぷりんぐはずかむ』 三月

久保るみ子 『さふらんさふらん』 五月

古梅 敏彦 『清水湧く』 五月
 花谷 清 『森は聖堂』 五月
 宇多喜代子 『記憶』 五月
 吉本伊智朗 『和美』 五月
 大島 時子 『母郷』 五月
 寺門 良子 『ハレー彗星』 五月
 紙谷香須子 『午前四時』 五月
 米岡 隆文 『隆』 七月
 嵯峨根鈴子 『ファウルボール』 七月

高木 智 『菖蒲湯』 十一月

平成二十三年十二月三日開催の句集祭に向け、会員の句集発行情報をお寄せ下さい。

※ホームページ連絡先

ホームページを活用して下さい。

〒567-0832 茨木市白川1-6-8

関西現代俳句協会・広報部 前田霧人

平成22年度 決算報告書

(自・平成22年4月1日～至・平成23年3月31日)

平成23年4月16日

関西現代俳句協会 (単位: 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	1,456,628	総会費	747,690
本部交付金	1,974,000	会議費	100,473
総会費	648,000	俳句大会費	465,197
俳句大会投句料	986,000	句集祭	703,500
句集祭参加費	528,000	青年部活動費	49,700
青年部活動費	22,000	印刷費	254,651
雑収入	0	事務費	79,868
		通信費	413,740
		交通費	76,470
		役員手当	558,000
		ホームページ費	129,739
		雑費	67,121
		次期繰越金	1,968,479
合計	5,614,628	合計	5,614,628

収入 5,614,628円 - 支出 3,646,149円 = 1,968,479円

残金 1,968,479円は次年度へ繰り越します。

会計 村田 あを衣 ㊞

平成23年4月7日

上記の通り、適正に処理されたことを認め、報告いたします。

会計監査 増田 耿子 ㊞ 川村 祥子 ㊞

平成23年度 予算

(自・平成23年4月1日～至・平成24年3月31日)

平成23年4月16日

関西現代俳句協会 (単位: 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	1,968,479	総会費(会場費・懇親会費・その他)	800,000
本部交付金(本年度会員数 1,000人)	2,000,000	会議費(諸会議費)	100,000
総会費(懇親会費)	500,000	俳句大会費(会場費・賞品費・諸雑費)	500,000
俳句大会参加費(投句料)	1,000,000	句集祭(会場費・懇親会費・その他)	700,000
句集祭参加費(懇親会費)	500,000	青年部活動費(講演会・句会・その他)	200,000
青年部活動費	50,000	印刷費(会報・封筒代・その他)	300,000
		事務費(事務用品)	100,000
		通信費(郵送料・電報電話代・その他)	500,000
		交通費	100,000
		役員手当	550,000
		ホームページ費	100,000
		雑費(慶弔費込)(消耗品代)	50,000
		次期繰越金	2,018,479
合計	6,018,479	合計	6,018,479

豊田会長「大阪俳人クラブ」 会長に就任!

関西の俳句関係の親睦団体「大阪俳人クラブ」において、去る五月三十一日開催された定期総会で、本会の会長豊田都峰氏が新しく会長に選出された。大阪俳人クラブは伝統俳句協会、俳人協会、関西現代俳句協会など関西の主要な俳句団体の会長が持ち回りで就任されることになっているが、七月末現在会員数は一五六〇名である。新会長の就任とともに事務局も交代され、新事務局長に鈴鹿均、事務局次長に吉田星子、会計に村田あを衣、事務局に吉村紀代子の皆さんが就任された。いずれも関西現代俳句協会の会員である。なお、新事務局は京都の野風呂会館にある。

事務局便り ③

二〇一一年度開催の行事

- ◇青年部大阪吟行・句会
日時 平成二十三年三月
会場 中之島公会堂
- ◇青年部句会
日時 平成二十三年七月九日(土)

会場 財団法人 柿衛文庫
ゲスト 宇多喜代子 氏

◇「第三回関西現代俳句大会」、「二〇一一年度総会」、「懇親会」

日時 平成二十三年四月十六日(土)
会場 ラマダホテル大阪

十四時三〇分から「第三回関西現代俳句大会」、十六時〇〇分から「総会」、十七時一五分から「懇親会」と進行し、第三回関西現代俳句大会は八九名の会員、非会員の方々のご参加を得て盛況のうちに無事終了しました。多数のご参加ありがとうございました。詳細は本会報の第一ページをご覧ください。三三二名の方々から一五三六句頂きました!
◇「五・七・五の世界」講座
日時

- 第一回 平成二十二年十一月十五日(月)
- 第二回 平成二十三年二月十四日(月)
- 第三回 平成二十三年五月九日(月)
- 第四回 平成二十三年九月十二日(月)

会場 中央電気倶楽部

この講座は俳句の初歩を学びたいという初心の方、もともと俳句を学びたいという中級の方のための講座で、講師として、宇多喜代子現代俳句協会会長と豊田都峰関西現代俳句協会会長をお迎えした。毎回、各講師がそれぞれ九十分、質疑応答を含め、午後一時

から五時まで四時間にわたる熱気溢れる講座は成功裡に終了した。
(以上、ホームページ掲載分)

二〇一一年後半から来年にかけての行事

◇「忘年句集祭」

日時 平成二十三年十二月三日(土)
会場 ホテルグランヴィア大阪

詳しくは同封のご案内をご覧ください。なお、昨年末から本年十一月までに句集、エッセイ等を出版された方は奮って出展して下さい。

◇第四十九回 現代俳句全国大会

日時 平成二十四年十月二十七日(土)
会場 ホテルグランヴィア大阪

詳しくは本会報の「来年秋十月、『関西発』の全国大会を成功させよう!」をご覧ください。

関西現代俳句協会

会報・第四十号

発行・平成二十三年十月二十日
発行人・豊田 都峰
編集人・尾崎 青磁・前田 霧人
事務局

〒六一一〇〇一四
宇治市明星町二六一一一 尾崎方
TEL/FAX 〇七七四二二二一四五九